

コンサベーション・インターナショナル(CI) コンサベーション・コーヒー プログラム

コスタリカ・コンサベーション・コーヒー

CONSERVATION
INTERNATIONAL



コーヒー栽培がもたらす生態系への チャレンジ

世界のコーヒー生産地の多くは、実は、生物多様性が豊かでありながら、破壊の危機に瀕している生態系に位置しています。そのため、栽培方法や栽培場所の選択が、環境に重要な影響を与えることとなります。しかし、適切な農法や土地利用を行えば、コーヒー栽培は環境保全の非常に強力なツールとなることが出来ます。伝統的なシェイドグロウン農法(熱帯雨林の木陰を利用した栽培方法)を維持すれば、動植物の保全に対して目覚ましい成果がもたらされることが分かっています。

コンサベーション・インターナショナル(CI)は、世界的なコーヒー企業との協働により、コーヒーのサプライチェーンにおけるすべての段階において生物多様性に対する配慮をとり入れ、環境問題を解決することを目指しています。

CIのコンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内のコミュニティとの協働により、環境に配慮した生育方法によるコーヒー栽培に取り組んでいます。また、このプログラムは、CIが実施する技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場の動向に左右される生産地の農家の生活の向上につながっています。

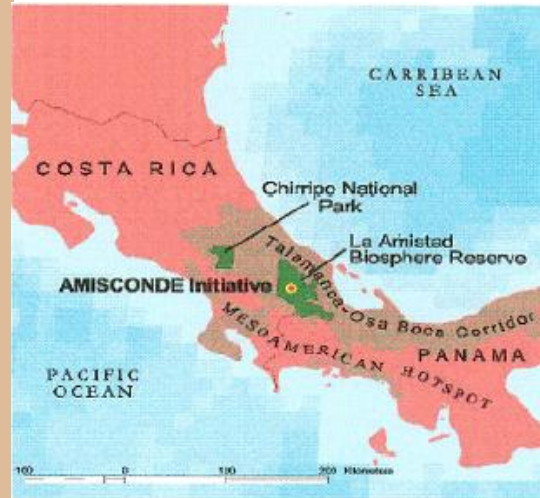
コスタリカでのコンサベーション・ コーヒープロジェクト

CIは2003年よりコスタリカのサン・イシドロ渓谷で、コンサベーション・コーヒー・プロジェクト(CRCCP)を開始し、2004年からは南コスタリカにあるチリッポ国立公園とラ・アミスタッド生物保護圏にまたがるコトブルス渓谷でも取り組みを始めました。2009年からは、トヨタ環境助成プログラムの支援により、パナマとの国境地帯をまたがる「ラ・アミスタッド生物圏保護区」の緩衝地帯において、コーヒー生産を利用した生物多様性コリドーの創生と、現地生産農家への支援を実施しております。

これらの地域は、ヒワコンゴウインコやアカコンゴウインコ、オウギワシ、クチジロペッカーリーなどの絶滅危惧種である鳥類の生息地です。ラ・アミスタッドは、中央アメリカで最大の雲霧林や、ベアードバクやジャガー、リスザルなど重要な哺乳類の生息地です。

一方、これらの危機に瀕した生物の生息地の多くは既に失われてしまいました。そのため、CRCCPでは、対象地域の再植林と保全に努め、これらの生物種や他の絶滅の危機に瀕した生物のために、新しく安全な生息地の形成に取り組んでいます。

COSTA RICA CONSERVATION COFFEE



コンサベーション・ コーヒーとは？



コンサベーション・コーヒー・プログラムは、生物多様性ホットスポット内にあるコーヒー生産地において、生物多様性を保全するための戦略のひとつです。コンサベーション・コーヒーのプロジェクトは、生産者とともに、生物多様性の保全と生産者の生活およびコミュニティの生計の向上に取り組むための手法として、**コンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCBP)**を開発しました。CCBPは各地域のニーズに応じて、適用・管理されています。各国のコンサベーション・コーヒーのパートナーは、以下のようなコーヒー生産とマーケティングにおける継続的な努力を通じて、地域の保全戦略に貢献しています。

- ・ 危機にさらされている動植物種の生息地の持続的な保全を促進する
- ・ 森林や他の原生生息地の開拓を防ぐ
- ・ 化学物質への依存を中止、もしくは減少させる
- ・ 水源地および水質の保全に努める
- ・ 土壌浸食を防ぎ、地力を高める
- ・ 荒れた土地への森林再生、もしくは生産性の高い農地へ転換する
- ・ 保全地域を守り、環境に関連した法規制に従う
- ・ コーヒー生産者への公正な報酬を確保するための、商取引の透明性を高める
- ・ 生産、加エプロセスにおける付加価値の向上
- ・ トレーサビリティの確立

コスタリカのコンサベーション・コーヒープロジェクト(CRCCP)は、南コスタリカのブルンカ地域で150の農家とともに活動してきました。対象地域は、高度1200 - 1450メートル、年平均降水量3,975 ミリメートル、年平均気温21.5度の地域で、平均的な農場の広さは、2.4ヘクタールです。平均生産量は、サンシンドロ渓谷で3コンテナ、コト・ブルス渓谷で4コンテナです。ただし、各地域の潜在生産可能量は10コンテナとなっています。

コーヒー豆は、各農家がウェットミルに搬送します。ミルでは、CRCCPのコーヒー豆の精製と乾燥が行われます。基本的に機械乾燥を行っています。ミルもコンサベーション・コーヒー・ベスト・プラクティス(CCBP)の参加者であり、コーヒー輸出のための貯蔵や準備を行っています。コーヒーはメンバーが設定した品質に合致しているかどうか検査されます。パイロットグループはCRCCPを通じて、トレーサビリティと透明性を確保するシステムに取り組んでいます。

2009年から取り組んだパナマとの国境地帯では、プロジェクトの成果により、500袋の収穫が可能となりました。



プロジェクトがもたらす便益

水質保持と水使用量の減少: CRCCPでは、水質汚染の防止に取り組んでおり、プロジェクトのパートナーは水使用量の減少と、現地周辺水域の水質汚染改善をすすめるウェット・ミルによる豆の粉碎を実施してきました。CRCCPでは、コーヒーの加工における水使用量を40リットルから1リットルに減少させることを目標としてきました。

生物種の保全: CRCCPから直接的な恩恵を受ける多くの動物種が、プロジェクト対象地域や近隣の保護区周辺で確認されています。194のコスタリカ固有種のうち、102種がコーヒー生産地周辺の公園にある生息地を必要としています。直近の目標は、生息地の保全を通じて、これら動物種の個体数を増加させることです。

農家への貢献: パートナーを通じて、CIIは、高品質のコーヒーに対してプレミアム・プライスをつけるスペシャルティ・コーヒーと呼ばれる市場において、高品質のコーヒーを取り扱うバイヤーと参加農家をリンクさせることを目指しています。このプロジェクトは、技術支援やビジネストレーニング、環境教育などを通じ、国際市場におけるコーヒーの低価格化に直面している農家の生活を向上させることができました。また、CIIはヴェルデ・ヴェンチャーズ基金を通じて、低利融資を農家へ提供する支援も行っています。

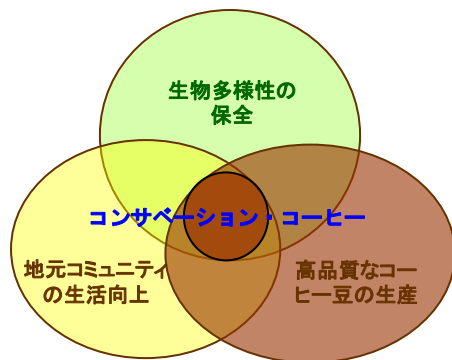
CIIは、世界のコーヒー産業が、生物多様性が危機にさらされている地域の保全に有効な戦略を作り上げることを目標にしています。

- ・コーヒーの調達決定時に、保全評価基準を取り入れること
- ・環境的に持続可能なコーヒー生産を推進する公共政策を推進し、インセンティブを形成すること
- ・コーヒー生産に影響を受ける生物多様性ホットスポット内の地域において、保全地域の拡大に向けた投資目標を設定し、地域ごとの保全計画に活動を取り込むこと
- ・コンサベーション・コーヒー・プログラムが実施されている地域への財政的、技術的支援を行うこと
- ・これらのプロジェクトで生産された高品質かつ持続可能なコーヒーのマーケティングを支援すること



デリカフェ社(Deli-Café)はCIコスタリカの輸出事業パートナーで、世界中のバイヤーへコーヒーを輸出しています。指定ミルは、海上輸送のため最新の準備設備を整え、バイヤー向けに、品質が保証されたすべての輸出用コーヒーの品質確認をしています。プロジェクトのミリングを担当するパートナーは、米国スペシャルティコーヒー協会(SCAA)による品質評価と等級を採用しています。

ヴェルデ・ヴェンチャーズ基金: 生物多様性の保全上重要な地域における小規模事業者への低利融資を実施する基金。スターバックス社、地球環境ファシリティ(GEF)などからの出資を基に発足。CIが生物多様性保全戦略に沿って管理・運営している。



この資料に関するお問い合わせ:
 コンサベーション・インターナショナル
 日本プログラム
 TEL: 03-6911-6640
 E-mail: ci-japan@conservation.org